

金沢におけるトランジション・マネジメント・ワークショップの試行

徳島大学大学院 学生会員 ○榎尾果歩 徳島大学大学院 正会員 山中英生
 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 正会員 松浦正浩 地球の友・金沢 非会員 三国成子
 地球の友・金沢 非会員 三国千秋 徳島大学大学院 正会員 尾野 薫

1. はじめに

政府は平成 30 年に「自転車活用推進計画」を閣議決定し、自転車の活用による環境負荷低減、災害対応、健康増進を図るため、安全確保と利用増進を理念とした計画を策定した。現在は、地方自治体において、それぞれの地域の実情に応じた自転車活用推進計画が策定されつつある。しかし、自転車の利用促進や活用では、従来の法律や道路構造、慣習などの社会システムがその障害となっている事例が多くみられる。このため、さらなる自転車の活用推進に向けた取り組みを進めるためには、障害となっている社会システムの構造転換を図る必要がある。

一方、ボトムアップで社会経済システムの構造転換を促す方法論としてオランダを中心にトランジション・マネジメント手法（以下、TM手法）が提案され、研究・実践が進められている。この手法は、目指すべき未来に向けて、ステークホルダー全体の合意形成を図るのではなく、持続可能な社会を実現し得るフロントランナー（先駆者）の挑戦的な取り組みを小規模ながらも実践することで、社会システムの構造転換を促すという考え方をとっている¹⁾。

2. 本研究の目的と方法

以上の背景をもとに、本研究では自転車活用推進におけるTM手法の適用可能性検証を目的に、金沢市を対象とした試行を行っている。金沢市では平成 23 年の「まちなか自転車利用環境向上計画」により、中心市街地の細街路において自転車の左側通行を促す自転車走行指導帯の整備や街頭指導を実施し、自転車関連事故が 10 年間で 65%減少するという実績を挙げている。今後は、自転車の利用促進や自転車を活用したまちづくりについて、新たな視点からの取り組みが望まれている。そこで、TM手法を適用することで、2030 年の金沢市まちなかエリアにおける持続可能な自転車の未来ビジョンと自転車活用プロジェクトの創生を通じた社会システムの構造転換を目指している。具体的には筆者らによるトランジション・チーム「自転車トランジション研究会」を構成してTMワークショップを運営した。

まず、金沢市で活動にフロントランナーとして協力が期待できる人物を発掘するため、21 名にヒアリングを行ったうえで、2030 年の金沢市のビジョンを描き、プロジェクトを検討するワークショップを 2 回実施した。ヒアリング対象者の選定は、①自転車の積極的利用を考えそうな人、②挑戦的なプロジェクトを行う人、③評論家でない人を選定し、自転車に直接の関わりがなくてもよいこととした。さらにヒアリングした方に他にヒアリングを行うべき人物を紹介してもらうスノーボールサンプリングを採用した。

そして、ヒアリング対象者を集めワークショップを 2 回実施した。1 回目では課題のフレーミングと未来像の共有を行い、2 回目ではさらに明確なビジョンを描きこれから取り組むべき具体的なアクションを検討した。第 2 回ワークショップにはオランダトランジション研究所所長であるダーク・ローバック教授を招き、オランダで実践しているトランジション・マネジメントについて講義を行った。

3. トランジション・ワークショップの適用結果

トランジション・ワークショップの結果、以下の 3 つのビジョンが明らかになった（図 1）。

1) 高いマナー・意識：未就学児から高齢者まで幅広い世代に対しての自転車教育の重要性を検討した。

また、金沢全体で共通のマナー意識を周知する必要も議論された。具体的なアクションとしては、2020 年 3 月 1 日より金沢市のシェアサイクル「まちなか」の台数及びポートの数が増えることからまちなかを利用した郊外での自転車教室の案が出た。

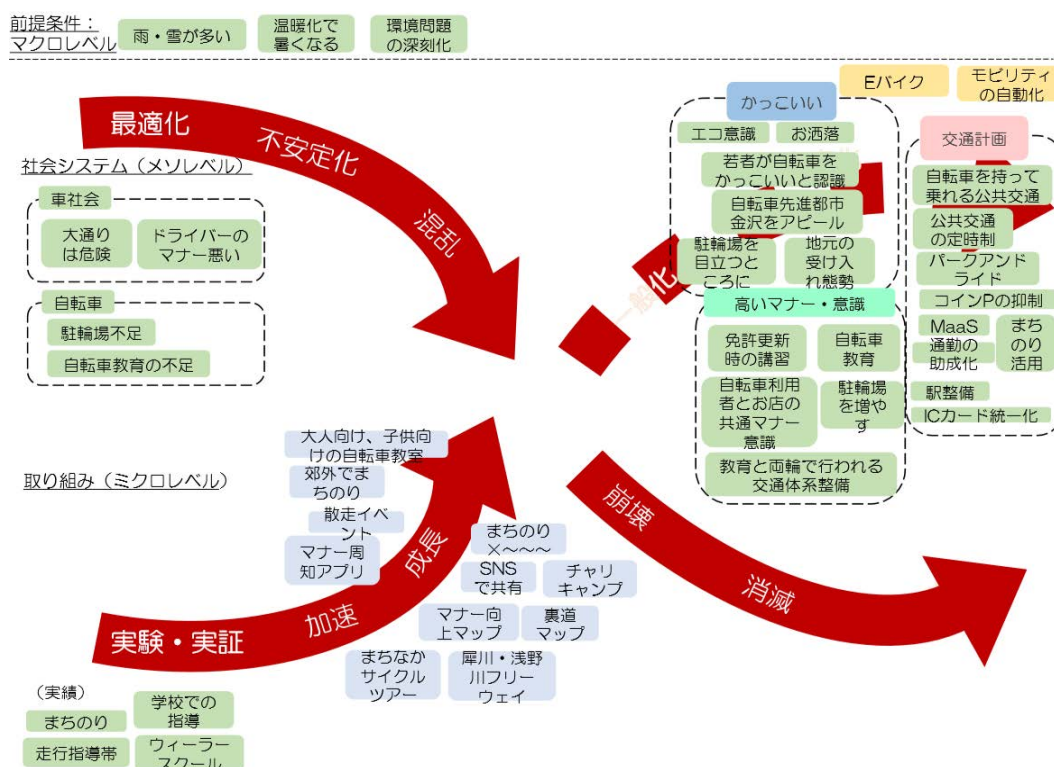


図1 ワークショップ結果の概念図

2) 持続可能な交通計画：10年後の環境問題の深刻化を懸念し、持続可能な未来のための交通計画の必要性が議論された。中心市街地の自動車交通量を減らすためにパークアンドライドを実施し、コインパーキングを抑制していくことが検討された。具体的なアクションとしては車通りの多いまちなかでサイクリングツアーを実施することでドライバーに対する意識改革を促すプランが提示された。

3) 自転車の方がかっこいい：自転車をかっこいい乗り物だと若者が認識することで自転車利用者を増やそうという議論が行われた。そのために自転車でしか行けない写真映えするスポットを探すことや自転車が走りやすいルートを作成することなどが検討された。

4. 終わりに

計2回のワークショップを実施することで2030年の金沢市のビジョンを描き、具体的なアクションを検討することができた。第2回ワークショップでは3つのテーマに分かれて議論を行ったがそれぞれのテーマで類似の項目が検討されており、参加者の描くビジョンが多様な視点から見ても集約へ向かっていることが確認された。そして、日常的に自転車を利用していない方や、自転車関連業に従事していない方からの意見を聞くことで、有識者だけでは描くことのできない未来を想像することができた。以上から、自転車活用に向けてトランジション・マネジメント手法を適用することは有効であることが示唆される。

また、今回描かれたビジョンはトランジション・チームの先導あつてのものではなく、参加者たちが自らの考えを話し合うことで生まれたものであることにも触れておきたい。

トランジション・マネジメントは一昼夜で完成されるものではなく、年月をかけて個人が小規模ながらも活動することによって賛同者を集め社会全体の大きな変革を導く方法論である。今回のヒアリング調査及びワークショップは2030年の金沢市のまちなかをより自転車利用者に優しいものにするための第一歩に過ぎない。

2020年度前半には具体的なアクションを検討する第3回ワークショップが開催予定であり、ここで検討した取り組みを実践していく予定である。今後も活動を実践し、その適用性及び成果を評価・検討したい。